

第5回 国際神経泌尿器科学会 (INUS 2017) in チューリッヒ フォト・エッセイ

東邦大学医療センター佐倉病院内科学神経内科
榊原隆次



はじめに

2017年1月25～28日にかけて、スイス、チューリッヒ（英語ではズーリック）において、オーストリアのインスブルック医科大学神経病院泌尿器科 Helmut Madesbacher 先生を会長、チューリッヒ大学泌尿器科准教授 Tomas M Kessler 先生を副会長として、第5回（2017年度）国際神経泌尿器科学会（the International Neuro-Urology Society ; INUS, 神経因性膀胱を中心とした学会）（図1）が開催されました。その概略を、フォト・エッセイの形で皆様にご報告申し上げます。

学会はチューリッヒ中心部のアルトステッテン

で行われました。INUSの母体はスイス禁制協会（Swiss Continence Foundation）で、2015年の第4回から、国際禁制学会（the International Continence Society ; ICS）との連携合意表明を経て、研究会から学会へと昇格しました。この間、日本から参加された先生方も多く存じます。筆者は第3回から参加しております。



第5回 INUS の概要と印象

学会は、世界中から招集された多数の研究者（Faculty）の口演を一般参加者が討議する形で、並行して一般ポスター発表があり、そのなかから学会賞が選ばれるというものです（図2）。ICSとのジョイントセッションも設けられ、内容は下部尿路の基礎、神経支配から低活動膀胱（underactive bladder ; UAB）、過活動膀胱（overactive bladder ; OAB）、間質性膀胱炎、薬物療法、手術療法、清潔間欠導尿（clean intermittent catheterization ; CIC）、その他と多岐にわたり、会場は大い



図1 INUSのマークとスイス国旗

Ryuji Sakakibara（教授）